

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

生涯にわたり仲間とともに主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方

～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 主題設定の理由

現在、私たちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い子どもたちの生活環境も変化し続けている。テレビ、携帯型ゲーム等、現代の子どもたちは身体を動かさなくても楽しみを得るための手段をたくさんもっている。また、生活が便利になることで身体を動かさなくてもよい状況も増えている。さらに子どもたちの運動不足の直接的な原因として、安心して遊ぶことのできる「時間・空間・仲間」の減少も深刻な問題として挙げられる。子どもたちの中にはスポーツ少年団に入って運動をしている子どももいるが、運動をしていても一部の運動技能の向上に限られてしまう状況も見られる。このように様々な問題を抱えながら現在の子どもの体力は低下しており、体育科学習において運動に親しむ資質や能力の基礎を育てていくことは重要な課題である。また、習得した知識や技能を活用して課題を解決したり、学習したことを相手に分かりやすく伝えたりする力も不十分であるため、昨年度の研究内容に表現力を高める工夫を視点として加え、本主題を設定した。

3 研究の目標

児童の運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるために、学習過程や表現力を高める工夫をしながら、各領域において主体的・対話的な学びを意識した体育科学習指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

学習過程の工夫をしながら、各領域において主体的・対話的な学びを意識した学習活動を展開することで、児童が自ら進んで運動の行い方や練習の仕方を学習し、運動に親しむ資質や能力の基礎を育て、表現力を高めることができるであろう。

5 研究の内容

市内各小学校において学習過程や表現力を高める工夫をしながら、主体的・対話的な学びを意識した学習活動の実践を行う。

6 研究の実際

(1) 運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる学習過程の工夫

学習過程の工夫においては、単元の導入において目標を明確にするという工夫が挙げられた。また、学習過程を固定化し、児童に定着させることで、主体的に体育の学習に取り組むことができたという工夫も挙げられた。



【固定化した学習過程の例】

【各学校での実践例】

- 目標の明確化 ○ 教具・場の工夫
- 学習カードの活用 ○ ICTの活用
- 単元の見通しをもたせる

(2) 表現力を高めることができる学習過程の工夫

表現力を高めることができる学習過程の工夫については、作戦を立てる時間や振り返りの時間を設けた実践が多かった。また、各領域の運動のポイントを明確にすることで、児童相互による教え合いが活発に行われるよう工夫している実践も多く挙げられた。これらの工夫により、児童が意欲的・対話的に学習することができ、表現力を高めることに繋がったと考えられる。

【各学校での実践例】

- 児童相互による教え合い ○ 学習カード
- 発表の場の設定 ○ ICTの活用
- 作戦や振り返りの時間の設定

(3) 体力の向上を図るための体育科学習を含めた教育活動の在り方

体力の向上を図るために、準備運動で主運動につながる運動を取り入れている学校が多かった。また、体力テストの結果から課題となっている項目について、準備運動や朝の時間等を使って意識的に運動させている例も多く挙げた。常日頃から、教師が何を向上させるか意識しておくことが大切だと考える。

【各学校での実践例】

- 主運動につながる準備運動
- 学級または全校で取り組める運動
- 家庭への呼びかけ ○ 強化旬間の設定



【作戦タイムの様子】



【学校で作成した補助運動事例集の例】

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- 各学校の実践によって、学習過程を工夫しながら運動に親しませたり表現力を高めたりすることで、主体的・対話的な学びを意識した学習活動を展開することができた。これにより単元の目標を達成できるだけでなく、児童一人ひとりの意欲的な活動にもつながることが確認できた。

(2) 課題

- 今後は、小林市全体で共通実践できるように、教育課程の工夫や運動事例について周知していく必要がある。